

北海道野幌高等学校

課程 全 日 制
学 科 普 通 科
生徒数 9 1 1 名

1 取組の特徴

コミュニケーションスキルを育成するため、集団カウンセリングやボランティア活動を行う。

2 取組のねらい

自己開示や他者理解に基づいた人間関係を育成する構成的グループエンカウンターやピア・サポートなどを実施して、コミュニケーションスキルを身に付けさせることにより、不登校や中途退学の予防・未然防止を図る。

<組織図>



3 取組の経過

8月 第1回アセス (学校適応検査)	1月 ピア・サポート講習会 (生徒会役員)
9月 教員研修 教育相談部内研修	4月～10月 ボランティア活動 あしなが学生募金
10月 教育相談に関わる生徒の実態調査	4月～12月 老人ホーム訪問
12月 構成的グループエンカウンター (第1学年) 第2回アセス (学校適応検査)	

4 取組の内容

- (1) 第1回アセス (学校適応検査)
1学年全クラスに実施
- (2) 教員研修
教職員を対象に、本校のスクールカウンセラーを講師として「発達障害への理解～疑似体験を通して」をテーマとした講演を行った。
- (3) 教育相談部内研修
教育相談部教諭5名及びスクールカウンセラーが、第1回アセス (学校環境適応感尺度)の調査結果について分析し、課題を明確化した。

- (4) 平成23年度 教育相談に関わる生徒の実態調査
2・3学年の生徒を対象に実施した。毎年実施しており、その年度の傾向及び経年変化を分析している。
- (5) 構成的グループエンカウンター
1学年2クラスを対象に、構成的グループエンカウンターを実施した。
- (6) 生徒会役員を対象としたピアサポート講習会
生徒会役員12名を対象に、自己理解について、様々な手法を通して理解を深めた。
- (7) ボランティア活動 (あしなが学生募金)
ボランティア部8名を対象に、趣旨説明の文書を配布しながら、札幌駅や大通で一般市民対象に募金を行った。
- (8) ボランティア活動 (老人ホーム訪問)
ボランティア部8名を対象に、老人ホームを訪問し、お年寄りの話し相手になったり、室内の清掃活動、洗濯物の片付けなどの活動を行った
- (9) 第2回アセス (学校適応検査)
1学年全クラスに実施

5 次年度に向けて

- 1 成果
 - ア 中途退学者の推移
中途退学者は昨年度41名に対し、今年度は1月末現在で21名である。
 - イ 学級適応検査等の結果
第1回アセスで、要支援生徒の割合が高かった「教師サポート」及び「友人サポート」の数値が第2回では下がった。これは、学級活動や級友などの様々な経験を通して、人間関係が構築された結果によるものと考えられる。
 - ウ その他の指標による評価
保健室来校者数が10%ほど減少した。
 - エ 生徒の変容した姿
ピア・サポート講習を受けた生徒は周囲の者への気配りを重んじるようになり、社会や学校、学級の様子に関心を深め、自分にできることは何かを考え、所属するクラスで主体的に学級活動に参加するようになった。
 - オ その他
教員研修では、発達障がい疑似体験することにより学級での支援のポイントについて学ぶなど、発達障がい全般における知識及び技能を得ることができた。
- 2 課題
 - ア 生徒の学校生活の適応状況を的確に把握し、問題行動等の未然防止として活用する。
 - イ コミュニケーションスキルを向上させるための学習活動についての検討を進める。
 - ウ コミュニケーションスキルを活用できる教育活動を積極的に実施する。
- 3 次年度に向けて
 - ア アセスを全学年で実施し、その結果を生かした組織的・計画的な教育相談体制を確立する。
 - イ 教員がコミュニケーションスキル指導者となることができるように研修を実施する。
 - ウ コミュニケーションスキルを高めるために、学校教育全体で言語活動に取り組む。
 - エ ボランティア部を中心とし、すべての生徒が参加できるボランティア活動を実施する。